

第1回協議会での意見（実態調査）

項目	意見
対象者について	<ul style="list-style-type: none"> • 特定疾患手当は所得制限があるので、手当受給者を対象とすると、一定の収入がある方については調査しないということになる。 • 難病患者の調査対象を、所得制限がある手当対象者に絞っている理由が全く理解できない。難病があっても障害者手帳の申請ができない人もいる。
調査項目について	<ul style="list-style-type: none"> • 入院中精神障がい者調査や施設入所者調査で、収入や差別についてなどの項目がないのはなぜか。障がい者調査と同様の項目でよいのでは。 • 回答は大変になるが、調査項目が多様な方が、色々なことを訴える機会にもなってよいと思った。 • 基本属性、障がいの状況について以外の項目についての答えやすさは人それぞれ違うと思う。万人向けの調査票にするのなら、あまり項目数を絞らず、答えにくいところは無回答でもよい、完璧な回答でなくてもよいというスタンスの方が、回答する側は協力しやすい気がする。結果、回収率も上がるのではないか。 • 予算や回答者の負担感もあると思うが、基本質問を作って、調査ごとに追加していくことも可能か。共通項目を検討してほしい。 • 回収率を上げるためには、ポイントを絞って分量を半分程度にしてもよい。3障がい同じ調査票で、本当の問題点を把握できるのかとも思う。 • どんな結果を得たいのかで質問の内容や仕方が変わってくるので、そこから検討した方がよい。 • 前回の調査票を見てもらえば、どれだけ分量が多いか分かると思う。継続して質問した方がよい事項もある。
回答について	<ul style="list-style-type: none"> • 回答する、しないは、質問の数・量ではなく、回答することで自分に何かメリットがあるかどうかによると思う。調査の目的、結果の活用方法、過去の調査結果がどう活かされたのかなどを説明する書面を調査票に同封できるとよいのではないか。 • 質問項目が多くて大変でも、そのアンケートが活かされている実感があれば頑張って回答しようと思う。アンケートと共に調査結果の活用例（★一目でわかる ★一枚にまとめた ★イラストやグラフなどで分かりやすく、取っ付きやすいもの ★役に立ったと実感が得やすい例を一つでも良いので）が載っている依頼文が付いていると嬉しい。